

化学療法プロジェクト研究 議事録 2012/1/19 (木) 13:00～

栃木県総合文化センター 3F 古典芸能練習室

参加者：島田安博、植竹宏之、掛地吉弘、森脇俊和、識名敦、濱口哲弥（敬称略）

1：高齢者プロジェクトについて

国立がん研究センター中央病院、四国がんセンター、県立広島病院、高知医療センター、東京医科歯科大学、九州大学の6施設からのアンケート集計結果をもとに議論

- 術後補助化学療法について
 - 2002年とくらべ2007年では76歳以上の高齢患者の占める割合が5%増えている
 - 補助化学療法を受けた患者も13.3%から17.8%と若干増えているが、補助化学療法未施行理由の40%が依然として医師判断であった。
 - 2005年大腸癌ガイドライン初版発行を反映してか、投与期間が6ヶ月を超えることはなくなった。
- 転移性大腸癌について
 - 補助化学療法と同様に、2002年と比べて2007年の76歳以上の高齢患者の占める割合は約5%増えている。
 - 抗癌剤治療を行った患者の割合はほぼ同程度だが、2007年ではFOLFOX/FOLFIRIを使用する患者が30例中7例であった。
 - 生存曲線を描いてみると、2002年および2007年のMSTはそれぞれ24ヶ月および20ヶ月とほぼ同等であり、元気な高齢者に対して若年者とほぼ同等の成績であった。
- 今後、IRB未承認施設のデータを追加して解析する予定

2：化学療法IC文書について

- 書式やボリュームについて検討中（次回へ）